

カリキュラム区分		現行カリ			シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位	
		学年	学期						
助産学実践領域	S108	1年	前期	助産学専攻科	必修	助産診断・技術学Ⅱ Midwifery Clinical Skills Ⅱ	60	2	
担当教員									
今村 朋子	井上 明子	瀧本 千紗		伊藤 美香*					
関連するDPキーワード									
<input type="radio"/>	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。								
<input type="radio"/>	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。								
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。								
<input type="radio"/>	④ マタニティサイクルにある対象の個別性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる								
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。								
<input type="radio"/>	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。								
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。								
授業目的									
<p>本科目では分娩期の内容に焦点を当てる。助産診断・技術学Ⅰから継続した産婦・家族の事例展開を通して、助産師として、分娩期の支援や分娩介助を自立して実施するために必要な基礎的能力を養う。特に、様々な助産技術を用いた関わりにより、女性の産む力と児の生まれる力を引き出すための援助を実践する能力を習得する。</p> <p>授業の流れとしては、第1回～9回で《分娩期の助産診断技術の基礎》を学習し、その後、10～17回で《分娩第1期の事例展開》へと学習内容をつなげていく。次に、18～27回で《分娩介助と新生児への援助》を学習し、28～30回の《分娩第2～4期の事例展開》へと学習内容をつなげていく形で段階的に能力を身につけることができる。</p>									
到達目標（授業目標）									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩期の診断と援助を行うための知識・技術を修得し、助産過程を展開することができる。</li> <li>2. 正常分娩を自立して取り扱うための分娩介助技術の基本を修得することができる。</li> <li>3. 女性にとって「出産」とは、どのような意味を持つのか、自分の考えを持つことができる。</li> </ol>									
回	授業計画（項目・内容与方法・担当者）								
1回	分娩期の対象理解と助産師の役割：「満足いくお産」「いいお産」とは 助産ケアが目指すもの [今村]								
2回	分娩期の助産診断と記録：分娩の4要素と助産診断類型、分娩期の記録 [今村]								
3回	お産のしくみ理解のワーク：お産のしくみを立体的にイメージ 内診による観察項目とビショップスコア [今村]								
4回	分娩期のフィジカルイグザミネーション：【技術演習】内診の技術 内診技術の基本 内診・外診所見を統合したアセスメント [今村・井上・瀧本]								
5回	分娩期のフィジカルイグザミネーション：【技術演習】内診の技術 内診技術の基本 内診・外診所見を統合したアセスメント [今村・井上・瀧本]								
6回	様々な診察手段を用いた分娩予測（135分）：フリードマン曲線と分娩予測 分娩の促進・遅延因子 様々な診察手段の選択 [今村]								
7回	娩出力のアセスメントと産痛緩和：【講義・技術演習】陣痛の定義と診察方法、陣痛と産痛、産痛のメカニズムと産痛緩和 様々な産痛緩和法の実践 [井上]								
8回	出産を正常に保つ援助とは？：内診課題の解説 産婦の産む力を引き出す援助 [今村]								
9回	出産を正常に保つ援助とは？：出産とホルモン・環境・姿勢 [今村]								
10回	事例展開⑥ 分娩第1期:陣痛発生（45分）：【実践演習】分娩開始の判断と電話対応 [今村・瀧本・井上]								
11回	事例展開⑦ 分娩第1期:入院時：【実践演習】入院時の助産診断と経過予測 [今村・瀧本・井上]								
12回	事例展開⑧ 分娩第1期:潜伏期：パルトグラムの記載、初期診断と児娩出予測 スタンダードプランの活用 [今村]								
13回	事例展開⑧ 分娩第1期:潜伏期：【実践演習】潜伏期の観察と援助 [今村・瀧本・井上]								
14回	事例展開⑨ 分娩第1期:活動期：スタンダードプランの活用と個別プランの展開 [今村]								
15回	事例展開⑨ 分娩第1期:活動期：全開が近づいた徴候、付属物の診断 【実践演習】活動期の観察と援助 [今村・瀧本]								

16回	お産の流れを読みとるワーク：経産婦の分娩経過、遷延分娩、回旋異常 [今村]									
17回	娩出力異常の診断と助産ケア：微弱陣痛・過強陣痛、分娩誘発の薬剤管理と援助 [井上]									
18回	分娩介助の基本(1) 分娩介助イメージ (60分)：映像でイメージする「出産と分娩介助」 分娩介助ノートの活用 [今村]									
19回	分娩介助の基本(2) 分娩介助の意義 (120分)：分娩介助の意義と会陰の解剖 会陰の解剖と児娩出のしくみ WHOのポジティブな出産体験のための分娩期ケア [今村]									
20回	分娩介助の基本(3) 事例展開⑩-1 分娩介助の流れ：・分娩第2期の流れとリスク判定 ・分娩第2期のバルトグラムの記載 [今村]									
21回	分娩介助技術(1)：【講義】仰臥位分娩の介助 ・分娩介助技術ビデオ視聴 [井上・伊藤]									
22回	分娩介助技術(1)：【講義】仰臥位分娩の介助 ・分娩介助ノートに沿った実技デモストと解説 [井上・伊藤]									
23回	分娩介助技術(1)：【講義】仰臥位分娩の介助 ・分娩介助ノートに沿った実技デモストと解説 [井上・伊藤]									
24回	分娩介助技術(2)：【演習】仰臥位分娩介助技術演習 児娩出～胎盤娩出の介助の実技 [井上・今村・瀧本・伊藤]									
25回	分娩介助技術(3)：【講義・演習】 分娩第2期の娩出力の診断と調整 努責の誘導と呼吸法 [山下・井上]									
26回	出生直後～早期新生児の健康診査と援助：【講義・技術演習】出生前の状態予測と児を迎える準備、出生直後新生児の全身観察 [瀧本]									
27回	出生直後～早期新生児の健康診査と援助：【講義・技術演習】早期皮膚接触時の観察とケア、早期新生児期の観察 [瀧本]									
28回	事例展開⑩-2 フリースタイル分娩：自然出産の意義とお産のケアエビデンス [今村]									
29回	事例展開⑪ 分娩第3～4期：【実践演習】分娩第3～4期の助産診断と援助 [今村・瀧本]									
30回	分娩終了時診断と公的記録：付属物の精査、分娩終了時診断と産褥・新生児期の予測、助産師の公的記録 [今村]									
成績評価方法及び基準										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験 (40%)</li> <li>・入院時診察試験：診察技術 (20%)、初期診断 (20%)</li> <li>・分娩介助実技試験 (20%)</li> </ul> 各評価ともに6割を合格の条件とする。 ※授業態度で減点あり。										
教科書	共通シラバスのとおり 教員作成の「分娩介助技術ノート」をテキストとして配布する。									
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石川紀子、中川有加、村越毅 編著「THE 分娩」(メディカ出版)</li> <li>・進 純郎、堀内成子「ブラッシュアップ助産学 正常分娩の助産術」(医学書院)</li> <li>・進 純郎「助産師必携 会陰保護技術」(メディカ出版)</li> <li>・田村正徳「日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト」(メジカルビュー社)</li> </ul>									
授業時間外の学習について (授業準備のための指示)										
<p>毎回、次の授業に向けた課題があるため、授業時間外での事前学習が必要となります。</p> <p>授業は、各自が実施してきた課題を確認する形式で行います。</p>										
関連科目										
前科目	S101	助産学概論	S103	周産期医学	S112	統合ヘルスケア	S107	助産診断・技術学Ⅰ		
後科目	S109	助産診断・技術学Ⅲ	S110	助産診断・技術特論		助産学実習Ⅰ～Ⅳ	S111	周産期ハイリスクケア論		
実務家教員										
備考	<p>※毎回、次の授業に向けた課題があり、実施してきた課題に沿って授業を行います。</p> <p>※16回の後、分娩期の診察についての実技試験を実施します。(今村・井上・瀧本)</p> <p>※27回の後、分娩介助技術についての実技試験を実施します。(今村・井上・瀧本)</p>									